



右側がチリメーサー。1時間あたり45kgの廃棄物の処理が可能。左側のドラム缶部分は廃熱利用給油設備。チリメーサーとパイプでつながっており、焼却熱で沸かした湯を貯溜しておける。「湯を多く使う病院やホテル、老健施設等にもお薦めしたい」と福富さん。

誰でも簡単に使え、かつ環境に優しい小型焼却炉「チリメーサー」。沖縄方言で「ゴミを焼く」という愛きょうある名称。開発したのはトマス技術研究所の代表者 福富健仁さん。「技術を通した環境改善」を理念に掲げ、日々開発に取り組んでいる。

小型焼却炉 チリメーサー 福富健仁 (42) 西原町



開発者の福富健仁さん。製品に関するお問い合わせは株式会社トマス技術研究所 ☎098(882)8515まで。

環境に優しい優れもの

需要に届えたい
専門学校で工学の講師を務めたのち、メーカーに就職。プラント機器の設計などを行っていたという福富さん。

上がったおり、その要望に

上がついており、その要望に
えたいと思つたんです」

「入浴しながら何気なく換気扇を回したとき、水蒸気を炉内で散布すれば燃焼を制御できるのではないかとひらめいたんです。すぐに水蒸気噴射用のノズルを作りました」

独立のきっかけは平成14年に施工された「ダイオキシン類対策特別措置法」。「ドラム缶などでゴミを焼くことが禁止になり、町工場や建設現場は頭を抱えていました。業者にゴミ処理を頼むとかなりの出費になります。簡単に使え、かつ置き場に困らない焼却炉をとの声が多く

「廃プラスチック容器や生ゴミなどは成功しましたが、タイヤを焼いたときに、もう

「ノズルの設置によって温度は制御できたものの、新たな問題が発生。焼却の際に炉内が高温になることや発生するガスが原因で、ノズルがたちまち腐食してしまつたんです。ノズルの耐久性強化に向け、

「燃焼も含め高さ3.6m幅1m、奥行1.8mとコンパクトな上、ゴミを投入し、ボタンを押して着火すれば焼却完了まで自動運転。誰でも簡単に扱える。またゴミを完全燃焼させるため、焼却灰は非常に細かく少量。1tの木材からわずか3kgの焼却灰しか出さない。その優れた性能から、平成16年には沖縄産業まつり県知事最優秀賞を受賞した。いいものを作つたという自信はあつたものの、無名の会社ということもあり、完成当初の売れ行きは厳しいものだった

熱利用しさらに進化
燃焼も含め高さ3.6m幅1m、奥行1.8mとコンパクトな上、ゴミを投入し、ボタンを押して着火すれば焼却完了まで自動運転。誰でも簡単に扱える。またゴミを完全燃焼させるため、焼却灰は非常に細かく少量。1tの木材からわずか3kgの焼却灰しか出さない。その優れた性能から、平成16年には沖縄産業まつり県知事最優秀賞を受賞した。いいものを作つたという自信はあつたものの、無名の会社ということもあり、完成当初の売れ行きは厳しいものだった

た。しかし、その評判は徐々に口コミで広がり、今では県外で40台近くが稼働している。昨年12月にはチリメーサーを進化させ、焼却の際に発生する熱で湯を沸かし、蓄えておくことのできる設備を完成させた。「エネルギーを有効活用する、サーマルリサイクルを実現しました。ボイラーの燃料が大幅に削減できるので環境に優しく、経済的！」
己の技術を使い、環境改善にとことん取り組みたいと語る福富さん。小さな町工場から産まれた発明は大きな可能性を秘めている。(東江菜穂) (毎月第2木曜日掲載)

サーマルリサイクルとは



サーマルリサイクルとは廃棄物を単に焼却処理するだけでなく、焼却の際に発生する熱などのエネルギーを利用すること。「チリメーサーは高温で焼却していますのでその熱には大きな利用価値がある。CO2の削減にもつながるし、枯渇しつつある石油にも頼らずに済みます」と福富さんは話す。



チリメーサーは一般の生ゴミ、廃プラスチックなど可燃ゴミの処理が可能。廃棄物を高温で完全燃焼させるため、焼却灰は非常に細かく少量。一度廃棄物を減らすことで、最終処分場の負担も軽減できます。

さらに処理能力アップ！ 中型焼却炉



小型焼却炉「チリメーサー」を土台に開発された中型焼却炉「TG-195」。「設計は私、電子制御機器製造を株大成電気製作所、機械製造を琉球球動力が行いました。プロフェッショナルの技術を結集した設備です」と福富さん。1時間当たり約200kgもの廃棄物を処理できる。廃油なども燃料に使用でき、環境にも優しい。平成18年に産業まつり県知事最優秀賞を受賞し、さらに2006年には地球温暖化防止活動環境大臣賞を受賞した。